

自動運転バスの 2 期社会実証及び令和 7 年度以降の事業計画について

自動運転サービス導入事業については令和 5 年度に 1 期社会実証及び 1 期社会実装を実施し、令和 6 年度は自動運転走行距離を延長し、2 期社会実証を実施しました。

当該社会実証の実施概要及び令和 7 年度以降の当該事業の事業計画について、下記のとおり御報告いたします。

1. 自動運転バスの 2 期社会実証について

➤ 実施概要

- 令和 6 年 11 月 15 日（金）～令和 6 年 12 月 13 日（金）の平日（21 日間）
- 1 期区間及び 2 期区間のバス専用通行帯（約 1.6km）及び一般車との混在区間の一部（約 1.3km）を自動運転レベル 2 による社会実証走行を実施

※2 期社会実証における走行路線



➤ 検証事項

- 自動運転走行時における手動介入箇所
- バス停停車時における自動運転走行の快適性・安全性
- 信号交差点直進・右折時における自動運転走行の快適性・安全性
- 一般車との混在区間における自動運転走行の快適性・安全性
- 無信号交差点における路車協調システムの有効性

➤ 実施結果

- 試乗者数：延べ 461 人（一般：200 名／関係者：261 名） 乗車率 73.2%
- 自動運転率：95.2%（全 60 便の平均値）

※GNSS 測位エラーのため 30%台の便も 1 便あったが、約 9 割の便が 90%以上の自動運転率を記録した。

- 手動介入箇所：平均 4.55 回（1 便当たり）

※自動運転率低下の主な要因（運転補助員アンケートより）は下記のとおり

路駐車両の回避、信号交差点侵入時に信号が変わった、カーブミラーや植栽検知による停車、交差点内で停止した、合流時に危険と感じた、横断者が渡り切る前に車両が動き出した 等

2. 令和 7 年度以降の事業計画について

自動運転レベル 4 による運行の実現に向け、下記のとおり事業の実施を検討する。

- 自動運転レベル 2 による社会実証・社会実装を経て、安全かつ効率的に機能するか検証後、自動運転レベル 4（一部区間）による社会実証・社会実装を実施する。
- 市民や運行事業者に対し、自動運転バスの理解や信頼性を深め、社会受容性を高めていく。
- 自動運転バスの安全性・公共交通の定時性を確保するため、バス専用通行帯の整備を行う。

※バス専用通行帯の整備予定箇所

〔 外環側道内回り、新倉北地域センター付近～地藏橋付近までの区間
新倉氷川神社入口から北側の区間（外環側道外回り）
新倉氷川神社入口から北側の区間（外環側道内回り） 〕

- SG リアルティ和光線の全ダイヤを自動運転バスに置き換える。